ナシシンクイタマバエの防除法

福島県農業総合センター 果樹研究所
平成18～19年度農業総合センター試験成績概要

1 部門名

果樹－ナシ－病害虫防除
分類コード　04-03-23000000

2 担当者

佐々木正剛･穴澤拓未･阿部憲義

3 要旨

ナシシンクイタマバエ（*Resseliella* sp.）は、2003年に相双地方のナシ園で初めて確認されて以来、浜通り地方を中心に発生が拡大してきたが、2007年7月に新たに福島市のナシ園でも発生が確認された。今後、さらに発生拡大するおそれがあるため、早急に防除法を確立する必要がある。そこで、相馬市の現地ナシほ場において本種の防除法を検討した。

(1) 粗皮削りや被害果の処理などの耕種的防除が最も効果的であった。

(2) 休眠期のＭＥＰ（スミチオン）乳剤1,000倍の散布（2007年3月8日、10Ｌ／樹）は粗皮削りと同等の効果が認められた。また、機械油乳剤（スプレーオイル）30倍の散布は粗皮削りに比べ効果がやや劣るものの、実用性はあると判断された。

(3) 本種の年間の発生回数はまだ不明であるが、越冬世代成虫および第1世代成虫の発生盛期は5月5～6半旬および6月6半旬と推定された。

(4) 慣行防除に比べ5月5～6半旬に殺虫剤を2回追加した結果、「幸水」での被害果率は1.5%（8月8日）と、2006年の11.0%（8月13日）に比べ低く抑えられた。

(5) 本種成虫の発生盛期にナシ害虫に対し登録のある有機リン剤やネオニコチノイド剤、合成ピレスロイド剤などを使用することで同時防除が可能と考えられた。

4 その他の資料等

第51回日本応用動物昆虫学会大会講演要旨